

鎮守の森の しおいさん

公園を見渡せる高台にたたずむ
潮井神社。命の水湧くその場所に
水神さんが祭られています。



熊本地震によって倒れたご神木や崩れた石段が残る潮井神社

古くから地域で大切に
されてきた神社と水源

崩れた石段や根元から倒れたご神木。親水エリアから階段を上ると、森に囲まれた場所に熊本地震の爪痕が残る潮井神社が見えてきます。応永元（1394）年11月14日建立と伝えられるこの神社は、「しおいさん」と呼ばれ、五穀豊穡や水の神様として地域の人たちにあがめられています。

社殿裏には布田川断層の名の元となった布田川左岸側の断層崖（断層が動いてできた崖）が連続し、断層崖の裾部から阿蘇を源とする伏流水が湧き出ています。ここが「潮井水源」です。古くから飲料水や生活用水として利用され、町内外の多くの人に親しまれてきました。



文政6（1823）年の春、杉堂に伊三次て言う百姓がおつてな、自分の田のむぞしや（かわいさに）、内緒で潮井の水源ば掘って自分の田さん水ば引かしたたい。そるが潮井宮さんの気に障つてな、5月の中頃苗代時（なわしろどき）まじも、潮井の水の出らんな止まってしもうちな、村中呆れち郡代の里長（惣庄屋）に訴え出た訳たい。その人たちが祭主となつて、津森宮の宮司も共に寝食を忘れて必死に祈らしたげな。15日から祈りに祈つて19日の昼、さすがの神さんも哀れて思いはったつたろ、切り立つ崖かる水の吹き出して、太さ2丈（約6m）もある岩ば吹き離す勢いで流れ出し、轟々（ごうごう）と言うち下の井手も田も打ち流す如て流れ出したげな。こるば見て村中の百姓も村々の里長（庄屋）たちも心から喜うじ、そるかるこの潮井さんば、大切にする如てなつたたい。

熊本地震と湧水

熊本地震の際、神社境内に現れた地表地震断層は長さ約8m、落差約70cm。平成30（2018）年2月、布田川断層帯は国の天然記念物に指定され、潮井は自然災害（地震）と自然の恵み（湧水）を学べる場として、地震断層などの保存整備が進められています。

熊本地震で湧水が枯れることはありませんでしたが、民話から196年後の令和元（2019）年5月、湧水量が激減。民話と同じ15日に湧水復活を祈る神事を行ったものの、湧水量の減少は止まらず、町職員が水神さんにお断りして湧出口を確認すると、地震やその後の大雨などで積もった土砂や岩で湧出口が覆われていました。それらを取り除き、湧水経路となりそうなところを掘ることで、湧水量は元通りになりました。

5カ月余りで拝殿被災 再建に立ち上がる住民

地震で被災した拝殿は、杉堂地区での5年間の積み立てや寄付で約800万円かけて、平成27年10月22日に完成した

ばかりでした。まだ新しい拝殿の被害を目の当たりにし、住民たちは修繕を考えましたが、断層の保存に伴いそれが難しくなったことから、神社建設委員会を立ち上げ、被災した神社のすぐそばに建て直すことを決定。再建を待つ間、ご神体は杉堂公民館に遷（うつ）されました。

地震から9年が経過した今年の6月8日、新しい神社に神様を遷す「遷宮祭」が執り行われました。県道熊本高森線沿いにあった「妙見さん」のご神体も一緒に祭られています。

寺中・田原の人たちが 毎年行う川祭り

しおいさんを大切にしているのは、杉堂地区の住民だけではなく。潮井水道を使って生活していた寺中地区と田原地区の住民たちも、水神さんへの感謝を込めて毎年川祭りを行っています。今年は両地区とも7月21日に開催。寺中地区は水源にわらで編んだ縄を張って、夏野菜と手作りのわらづとを竹につるし、田原地区は神社に酒をお供えし、水神さんへ祈りをささげました。

守り続けたい 寺中の伝統

寺中区长
坂田成喜さん



毎年田植えが終わり水が大事な時期に、水神さんへの感謝を込めて潮井水源で川祭りをしています。子どもたちが川遊びをする時期でもあるので、カップがいたずらしないようにという意味もあるんですよ。いつから始まったか定かではありませんが、寺中地区の伝統行事です。

供物は、わらや竹など材料を持ち寄り毎年手作りしています。先輩たちと一緒に作りながら見て覚え、次の世代にもつないでいきたいと思っています。

1 新しい潮井神社 **2** さい銭箱は元の素材を使用。元大工の住民の手によってきれいに生まれ変わった **3** 遷宮祭では杉堂地区住民も協力し、ご神体が杉堂公民館からお社に移された **4 5** 川祭りでは供えるわらづなどは寺中地区住民の手作り **6** 7月21日に潮井水源で行われた寺中地区川祭り

